

ウィークリーレポート

2018年2月19日

2018年2月19日号

■ 主要指標の動き

	先週末*	騰落率				
		2/16	1週間	1カ月	3カ月	
株式関連	日経平均株価	21,720.25	1.58%	▲9.32%	▲2.82%	
	TOPIX	1,737.37	0.31%	▲8.28%	▲1.38%	
	JPX日経インデックス400	15,393.66	0.33%	▲8.28%	▲1.59%	
	NYダウ(米)	25,219.38	4.25%	▲2.22%	7.51%	
	S&P500(米)	2,732.22	4.30%	▲1.59%	5.67%	
	FTSE100(英)	7,294.70	2.85%	▲5.95%	▲1.25%	
	DAX(ドイツ)	12,451.96	2.85%	▲6.00%	▲4.56%	
	香港 ハンセンH株	12,535.51	5.33%	▲1.97%	8.68%	
	中国 上海総合	3,199.16	2.21%	▲6.91%	▲5.89%	
	インド ムンバイSENSEX	34,010.76	0.01%	▲2.19%	2.73%	
	ブラジル ポベスバ	84,524.58	4.48%	5.88%	16.57%	
	債券関連	日本10年国債利回り	0.055%	▲0.015	▲0.025	0.010
		米国10年国債利回り	2.875%	0.024	0.338	0.500
ドイツ10年国債利回り		0.706%	▲0.039	0.144	0.330	
米国ハイイールド債券		383.75	0.76%	▲1.34%	0.07%	
その他		東証REIT指数	1,664.05	▲0.02%	▲2.89%	2.35%
	S&P先進国REIT指数	244.42	1.82%	▲4.29%	▲7.41%	
	S&P香港REIT指数	379.95	0.23%	▲7.06%	▲4.50%	
	S&PシンガポールREIT指数	334.92	1.73%	▲5.41%	1.35%	
	ブルームバーグ商品指数	88.20	2.99%	▲0.28%	2.97%	
	NY金先物	1,356.20	3.08%	1.43%	6.10%	
	アレリアンMLPインデックス	1,221.36	1.11%	▲7.82%	5.97%	

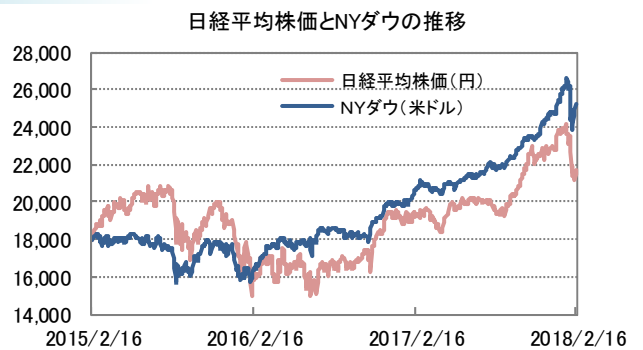
\* 2/16休場の市場は直近値

	先週末	変化率		
		2/16	1週間	1カ月
米ドル	106.29	▲2.38%	▲4.11%	▲6.00%
ユーロ	132.93	▲0.37%	▲2.21%	▲0.17%
英ポンド	149.92	▲1.14%	▲2.00%	0.67%
豪ドル	84.43	▲0.31%	▲4.29%	▲1.71%
カナダ・ドル	85.15	▲1.42%	▲4.48%	▲3.82%
ノルウェー・クローネ	13.69	▲0.44%	▲2.63%	▲0.22%
ブラジル・リアル	32.88	▲0.72%	▲4.59%	▲3.55%
香港ドル	13.59	▲2.37%	▲4.09%	▲6.15%
シンガポール・ドル	81.22	▲0.67%	▲3.07%	▲2.52%
中国・人民元	16.77	▲2.50%	▲2.61%	▲1.76%
インド・ルピー	1.68	▲1.75%	▲4.55%	▲3.45%
インドネシア・ルピア	0.79	▲1.25%	▲4.82%	▲5.95%
トルコ・リラ	28.21	▲0.95%	▲3.39%	▲3.06%
南アフリカ・ランド	9.15	2.01%	1.55%	16.56%
メキシコ・ペソ	5.75	▲0.35%	▲2.21%	▲2.21%

※債券の騰落率は利回りの変化幅  
 ※米国ハイイールド債券はICE BofA Merrill Lynch US・ハイイールド・BB-B・インデックス  
 ※東証REIT指数は配当なし  
 ※S&P先進国REIT指数は除く日本、米ドルベース、配当なし  
 ※S&P香港REIT指数、S&PシンガポールREIT指数は米ドルベース、配当なし  
 ※NY金先物は1トロイオンス当たりの米ドル建価格  
 ※アレリアンMLPインデックスは米ドルベース、配当込み  
 ※インドネシア・ルピアは100通貨単位での表示

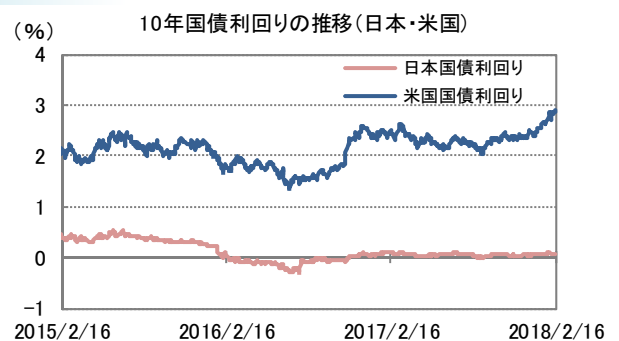
■ 株式市場

日経平均株価は4週ぶりに反発。円高・米ドル安の進行から輸出関連株への売りが先行したものの、米国株式の上昇や株価変動率の低下を受けて内外の投資家による買い戻しの動きが強まった。  
 NYダウは大幅上昇、6日続伸で週を終えた。株価変動率が低下するにつれて業績不安の少ない優良株が物色された。米長期金利上昇への警戒感が一服となった一方、金利上昇で業績改善が期待される金融株が買われた。週間での上昇幅は過去最大となった。



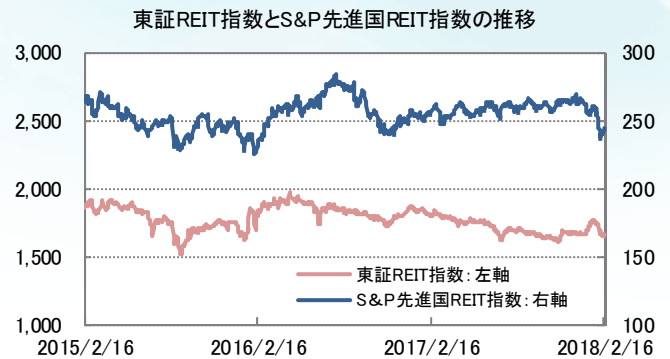
■ 債券市場

日本10年国債利回りは低下(価格は上昇)。5年物国債入札の結果が良好となったほか、日銀総裁が続投の見通しとなり、現行の金融緩和策継続が意識された。  
 米国10年国債利回りは上昇(価格は下落)。1月の米消費者物価指数が市場予想を上回る伸びとなり、FRB(米連邦準備理事会)による利上げペース加速が意識された。1月の小売売上高や鉱工業生産指数など市場予想を下回る経済指標の発表があったが、債券市場の反応は限定的となった。



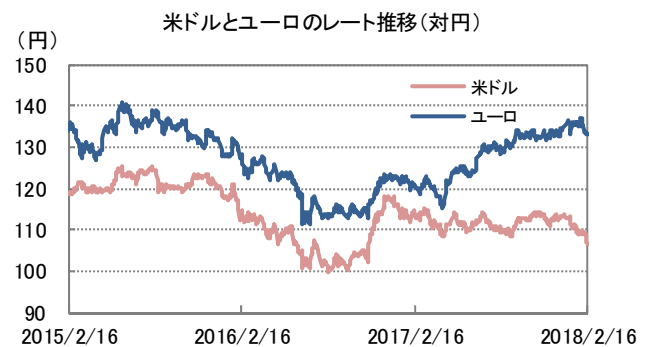
## ■ その他の資産

国内REIT市場は3週連続で下落。  
海外REIT市場は3週ぶりに上昇。  
原油先物市場(WTI)は上昇。米国の原油在庫が市場予想ほど増えず需給悪化に対する警戒感が一服したほか、米ドル安の進行で米ドル建価格の割安感が意識された。  
金先物は上昇。米ドル安の進行を受けて買い戻しの動きが強まった。



## ■ 外国為替市場

米ドル/円は下落が続いた。週央にかけて欧米株式の下落を受けてリスク回避目的の円買いが強まった。週後半はユーロなど幅広い通貨に対して米ドル売りが強まったことが米ドル/円にも波及した。米長期金利が上昇し日米金利差が拡大したが、米国の財政赤字拡大への警戒感などを背景に円売り・米ドル買いの動きは強まらなかった。週末の海外市場では米国市場の3連休を控えて持ち高調整や利益確定目的の動きから米ドルが反発した。  
ユーロ/円も下落した。



## ■ 主要経済指標

### 【国内】

実質GDP(国内総生産)成長率(2017年10-12月期、1次速報値)・・・前期比年率+0.5%、8四半期連続のプラス成長。  
機械受注(12月)・・・船舶・電力を除く民需は前月比▲11.9%、3カ月ぶりに減少。

### 【海外】

#### <米国>

消費者物価指数(1月)・・・コア指数は前月比+0.3%、前年同月比は+1.8%。  
小売売上高(1月)・・・前月比▲0.3%、11カ月ぶりの落ち込み幅。12月分も同+0.4%から横ばいに下方修正。  
鉱工業生産指数(1月)・・・前月比▲0.1%、鉱業が低下。製造業は2カ月連続の前月比横ばい。  
住宅着工件数(1月)・・・前月比+9.7%の年率換算132.6万戸、2016年10月以来の高水準。  
消費者信頼感指数(2月、ミシガン大学調べ)・・・前月から+4.2ポイントの99.9、4カ月ぶりの高水準。

## ■ 今週の焦点

### 【国内】

2月19日に貿易統計、23日に全国消費者物価指数と1月分の指標が発表されます。

### 【海外】

2月21日に米国では1月の中古住宅販売件数、欧州では2月のユーロ圏総合PMI(購買担当者指数)が発表されます。

(信頼できると判断したデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成)

## [投資に関する留意事項]

### ◎投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債など値動きのある有価証券等を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。したがってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

### ◎投資信託に係る費用について

投資信託にご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。

1. 購入時に直接ご負担いただく費用 (1) 購入時手数料 上限 3.78%(税込) (2) 信託財産留保額 上限 0.1%

2. 換金時に直接ご負担いただく費用 (1) 信託財産留保額 上限 0.5%

3. 保有期間中に間接的にご負担いただく費用 (1) 信託報酬 上限年率 2.052%(税込、概算)

※ファンド・オブ・ファンズ形式の場合は、一部を除き、投資信託が投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。

※一部の投資信託および投資信託証券には運用実績等に基づき計算される成功報酬額が別途かかる場合があります。この場合、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合がありますが、成功報酬額は運用実績等により変動するため、上限額等を事前に表示することができません。

4. その他費用 (1) 上記以外に投資信託の保有期間等に応じてご負担いただく費用(\*)があります。これらの費用は、運用状況等により変動するため、料率、上限額等を事前に表示することができません。

(\*) 監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、投資信託証券の解約に伴う信託財産留保額、および投資信託が実質的に投資対象とする仕組み債券の価格に反映される費用等

上記の費用の合計額については、お客様が投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に表示することができません。

詳細は投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等でご確認ください。

### 《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友トラスト・アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率(作成日現在)を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧ください。

### ◆設定・運用は



商号 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号  
加入協会 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。